

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 端山園	代表者	山内 幸雄	法人・事業所の特徴	開設して3年。豊國神社の境内の一角に位置し、自然に囲まれた閑静な環境となっている。「住み慣れた地域で、いつまでも‘ありたい自分’で暮らしていける」ことを目指し日常の支援を行っている。
事業所名	地域密着型ケアセンター いまくまの	管理者	浦野 彬博		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	3人	人	人	1人	人	6人	人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 毎日職員間のミーティングを行いケアの情報共有を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日職員間のミーティングを行うことを始めたが定着しており、利用者のケアに関する情報共有がしっかり出来るようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価を行うことで職員に良い変化は見られた。 具体的には、利用者の失禁で濡れた衣類を持ち運ぶ際、これまではそのまま洗濯場まで運んでいたが、やはり袋に入れたほうがいいのか？といった意見が職員から挙がり、利用者の尊厳やプライバシーに配慮したケアが行えるようになった。 	<p>利用者の尊厳やプライバシーの保持については常に意識してケアにあたっている。ケアについても職員側からの押しつけではなく利用者自身がどのような暮らしを望んでいるかを考えながら職員間で相談することを大切にしている。</p> <p>現在毎日職員間のミーティングを実施しており、経験の浅い職員も意見が言える場が作れている。それぞれの職員が気づいた所を共有することでチームとしてより良いケアに繋がられるよう今後も継続していく。</p>
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 清潔感はあるが、レク用品などが雑然と置かれている事もあり棚の設置等を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 手芸用品を置けるような棚の設置やダイニングテーブルの購入で利用者がよりくつろげるような配置とした。個々にやりたいことがしやすい空間になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 小規模多機能らしい家庭的な雰囲気を感じられる。 実際に中に入ってみるとあたたかみも感じる。 檜風呂を実際に見たが、利用者には喜ばれているのではないかと感じる。 →実際に入浴を楽しみに 	<ul style="list-style-type: none"> 現在は手芸や貼り絵など主に室内で出来る事をされている利用者が多いが、今後は園芸や簡単な家庭菜園なども取り入れて、より季節感を味わえるような環境づくりをしていければと考えている。

			<p>こられているご利用者もおられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徘徊の方がおられたら玄関の施錠などノーロックは大変ではないか？ <p>→現時点ではご利用者が一人で外に出ようとされる際は、無理に引き止めるのではなく、さり気なく職員が付き添って見守りをしています。玄関の施錠は夜間帯のみとしています。</p>	
<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会や餅つき等利用者と一緒に参加し、地域との交流を図っている。今後はふれあいサロン、地域ケア会議などを通して事業所の認知度をさらに高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会や餅つきにはグループホームの利用者も一緒に参加させていただいた。町内会の方からも暖かく迎え入れてくださっている。 ・地域ケア会議にも参加はしているが、特定の職員に偏っているため、事業所内での周知がさらに必要だと感じている。 ・夏に流しそうめんのイベントを開催した際には地域の方も来てくださり、事業所の案内もさせていただきました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の場所については特に東大路通より西側の住民の方々に知らない方が多いようだ。 <p>自治連合会などと連携して情報開示してはどうか？</p> <p>民生委員でも知らない方もおられ、地域の集まりの時に施設案内をしてはどうか？</p> <p>→自治連合会とのおつきあいを深めていく必要性があるとわかりました。</p> <p>カラオケサークルや地域の夏祭りなどの場をお借りしてしまくまの事業所としてのアピールが必要だと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区の地域ケア会議での顔合わせの機会を設けてはどうか？（東山包括様より） 	<p>自治連合会や学区の地域ケア会議など地域住民の方との繋がりを深める機会を活かし、事業所の場所やサービスの内容をお知らせする。</p> <p>また周辺に看板があってもいいのではないかと、言う意見もあったが今後の検討課題としたい。</p>

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問や送迎以外で地域に出向く機会が少ない。サロンなど利用者と一緒に参加できる機会を設けたい。 ・地域ケア会議に参加し、近隣住民や他の機関と情報交換を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模多機能の利用者については地域のサロンなどには一緒に行くことは少ない。むしろ自宅からいまくまのに出かけに来ているという感覚でおられる様子。 ・地域ケア会議には参加させていただいているが、まだまだいまくまのの事業所としての情報提供が必要と思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・銭湯難民、配食難民の方々への取り組みなど地域包括としても問題を拾いきれていないところもある。 →東山包括さんで配食サービスの食べ比べイベントなどを主催され、いまくまのも参加させていただいたが情報交換ができて非常に良かった。 ・修道学区にあった銭湯が廃業され、現在はゼロになってしまった。地域としても課題と感じている。 →事業所のお風呂を活用していただくことも可能です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議などで利用者の近隣住民の方と直接顔を合わせる機会に積極的に参加する。 ・利用者の近隣住民からの困り事にも相談させていただき、行政などとも協働しながら地域づくりの一部を担っていく。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の中で買い物や入浴困難な方の情報を募る。 ・いまくまので実施する行事のアナウンスを事前に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の報告がメインになってしまっていると感じている。そのため、地域の課題や困っておられる方の情報交換などが今後必要ではないかと感じている。 <p>いまくまので実施する行事のアナウンスについては年間計画が定まっていない部分もあり、その都度アナウンスさせていただいている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議に参加することになって事業所の存在を知った。民生委員に情報を伝える際に資料があればわかりやすいと思う。いまくまのが修道学区だと知らない住民もおられる。 施設の案内がもっと地域に届けば知ってもらえるのではないか。もっとパンフレットが欲しい。 →最近インターネットで情報を集めて地域密着型サービスを希望して来られる方が増えてきている。月に1回以上は相談に来られる方がおられます。ただし何をし 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にあらためてパンフレットなどの配布を行い事業所を知ってもらう。 ・運営推進会議では事業所の報告だけでなく、地域の困りごとや相談ケースの共有を行う。

			<p>てもらえるのかがわかりにくい様子で、サービスの内容を知ってもらう必要性を感じている。</p> <p>→相談を受けた件を運営推進会議で報告してはどうか。そこから地域の困っている方と繋がるための情報を共有出来ると思う。</p>	
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉避難所としての登録を行う。(H29年度登録済) ・備蓄食料・物品などの整理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉避難所としての登録を行った。 ・防災委員会を中心に、備蓄食料・物品など整理を行い、賞味期限などの一覧表を作成した。また、全職員が分かりやすいように写真でどこに何があるかをファイルにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・去年は町内で火災が何件か発生しており、高齢世帯も多いため心配している。 ・救命講習は実施しているか？→今年度消防署のご協力の下、AEDの講習を実施しました。→AEDは全員が使えるようにしておいてほしい。 ・災害時二次的な避難者の受け入れなども期待されている。地域の方の頼りになる事業所であるためにも消防訓練にも参加してもらえるといいのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AED講習を実施し全ての職員が救急対応できるようにする。 ・地域の防災訓練や事業所の防災訓練にお互いに参加することで、いざという時の連携が取れるようにする。